

# 園長だより NO36

先週末、関東は大雨、時折激しい風が吹きました。私は悪天候の中、県内のとある養成校の研究会に参加しました。現場で活躍されている保育士、幼稚園教諭の話を知ることができました。以前園長だよりNo.20で悩み多き保育士について掲載しましたが掲載から1年が経ち、現場はどう変化しているのだろうか大きな関心がありました。

## 悩み多き保育士

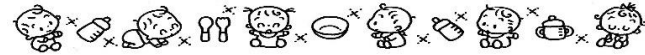
### 明るい兆しに向けて

研究会は主題はあるものの、参加者の発言から話題の柱を抽出して討議を進めていきました。かなりリアルなとてもデリケートな問題もありますので概要だけ取り上げます。

期待に胸膨らませ養成校を卒業、念願の保育者になり現場に入ったものの現実とのギャップに多くの悩みを抱えています。

適正な保育の実施、私は常々、子ども達の主体的な生活はまず、かかわる大人の主体から始まると思ってきました。かかわる大人が子ども達の理解に努め、子ども達の生活のため様々な知恵を出し環境を作り、適正な援助をしていくと考えます。

大人の主体とは、けして大人よがりの計画の実施ではありません。



討議の中からは

- ・ 子どもの発達の理解が十分でない。
- ・ 保育士同士の関係性が構築できていない
- ・ 若年保育者の指導ができない
- ・ 若年層の学びの機会の希薄さ
- ・ 中堅から主任、園長の指導力不足
- ・ 人としての温かみのある人格の欠如
- ・ 教育の取り違い、早期教育にかたより、毎日をこなすのに精いっぱい
- ・ 悩みを傾聴する立場の上司の不在

上記の発言から

早急に改善に向けた取り組みをしていかななくてはならない事例ばかりである。ほんの冰山の一角であると考えられるがかなり重症である。話に耳を傾けていただける上司がいて試行錯誤しながらも取り組んでいる施設もあるが多くの保育者が声にならない悲鳴を上げていることは間違いのない事実である。

改善されなければ離職、頑張っても、頑張っても仕事に従事しても身体を壊してしまう事例も多くあるのが現状です。

### 社会の歪みからきているもの

一生懸命に力を注ぎ、保育業界全体のために従事している方も多くいます。半面、古くから一貫して保育(保育にかかわる事業全般)を変えずに、変えようとしなない理事長さんや園長さんも多くいるのは事実です。

時代に合わせ、あれもこれもと変化させることも困りものですが子ども達の生活を支え



いく保育者の「心」「感覚」「身体」が常に受け身でなく能動的な状態が保てるような仕組みづくりを考えなくてはなりません。

昨今、保育施設の建設ラッシュ、施設整備の影響により保育士不足、十分なキャリアを踏んでいない園長、主任の存在などまさに負のスパイラル現象はとどまるところを知らない

中堅保育士、主任、園長(所長)研修なども実施され、各地でも盛んに勉強会が開かれ、現状の問題に向き合っている。園独自で研修会を企画し身近な問題の是正、改善に努めている園も多くあります。

養成校の研究会は草の根の地道な運営であり、悩める保育者の救済どころであり、私のような園長職にむけた啓発、注意喚起、叱咤激励の場所でもあり、よりよい保育を創造していく貴重な場になっている。

社会の歪みの中で生まれた問題を保育者が抱えこまずに多くの保育者で悩みを共有し改善に向けた一歩を踏み出していきたいと思う。

### 乳幼児の生活

乳幼児の生活(教育)は当たり前であるが子ども中心で子どもの主体性を尊重した遊びや生活を通じた体験(経験)的な教育を施している場と考えます。

子ども達は受け身ではなく、常に能動的に、環境、物事に働きかけていきます。

「なんだろう」「おもしろそうだな」

2019.6.17

「どうしてなんだろう」「できるかな」「やってみよう」

好奇心、探求心旺盛、自ら働きかけ多くのことを学び、獲得していく、指示や命令、大人よがりの計画で与えられた経験を積んでいく時期ではないと考えます。

受け身で学ぶのではなく主体的な学びが大切です。

子ども達の発達(学び)は「主体性を尊重すること」「環境を通じた教育であること」「遊びや生活が中心であること」が大切と考えます。

養成校での研究会の参加、私の心に大きな揺さぶりをかけていただきました。子ども達の生活を見直し、より良い方向性を出していくことがおのずと確かな保育、保育士の仕事への意欲につながっていきます。園長がしっかりしなければ、まだまだ修行は続きます。

### 子ども企画 5歳児めろんぐみ

自分たちでつくるよ 遊びの拠点づくり



遊びを通じた学び 創造、知恵をしぼり、もてる技術をつかい、仲間との楽しさの共有

ひとりひとりの充実と仲間との充実

(園長 廣部信隆)